

関西医科大学大学院  
生涯健康科学研究科  
学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目 次

(1) 新設組織の概要	p 3
(2) 人材需要の社会的な動向等	p 4
(3) 学生確保の見通し	p 6
(4) 新設組織の定員設定の理由	p 12

## (1) 新設組織の概要

### ①新設組織の概要

関西医科大学（以下、本学）は昭和3年6月30日に現大阪府枚方市牧野に設立した大阪女子高等医学専門学校を前身とし、昭和35年に医学進学課程（教養課程）、昭和36年に大学院医学研究科博士課程を設置した。平成30年4月に看護学部、大学院看護学研究科博士前期課程・博士後期課程を新たに開設し、その後令和3年4月にリハビリテーション学部、大学院医学研究科修士課程を開設し、現在3学部2研究科を擁する医療系複合大学である。本学は枚方キャンパス、牧野キャンパスの2つのキャンパスを持ち、枚方キャンパスには医学部、看護学部、大学院医学研究科、大学院看護学研究科があり、牧野キャンパスにはリハビリテーション学部がある。

設置を構想している大学院生涯健康科学研究科については、我が国における急速な高齢化や社会動態的变化、あるいはAI等の技術革新やデジタルトランスフォーメーション（DX）の加速等の社会状況の変化や、「保健医療2035（平成27年6月「保健医療2035」策定懇談会）」<sup>1</sup>にも述べられているように、“保健医療を取り巻く外的・内的環境の変化（人々の価値観や働き方、社会経済や財政の状況、テクノロジーの進歩など）を見通すことは容易ではない”ため【資料.1】、今後の保健・医療・福祉分野において必要とされる知識や技術を持つ人材の養成が急務である。そのため、今後の大学院においては、専門知識の深化は言うに及ばず、科学的根拠に基づいた関連分野を含め幅広い知識を教授する必要がある。

昨今の新型コロナウイルス感染症などを始めとする新たな感染症も見据えた新しい生活様式への変容など前述の「保健医療2035」においても、保健医療のパラダイムシフトが提言されており、今後、将来にわたり変容していく我が国の保健・医療・福祉の情勢を踏まえ、本学生涯健康科学研究科では、「生体機能解析学領域」、「健康支援開発学領域」、「こどもとおとなの神経科学領域」、「こどもとおとなの生活科学領域」の4つの領域を置き、科学的根拠に基づいた高度の専門性を持つ、幅広い知識を修得できる教育課程を編成し、健康増進や疾病予防等将来の保健医療に必要な知識と技能を教授する。博士課程に進学する大学院生については研究者としての礎を、また修了後に保健・医療・福祉分野で活躍できる高度専門職業人を育成する。

なお、生涯健康科学研究科はリハビリテーション学部と同一の牧野キャンパスに設置する。

---

<sup>1</sup> 「保健医療2035」提言書

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/hokeniryou2035/assets/file/healthcare2035\\_proposal\\_150609.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/hokeniryou2035/assets/file/healthcare2035_proposal_150609.pdf)

## ・新設組織の概要

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
関西医科大学大学院 生涯健康科学研究科（修士課程）	8	—	16	大阪府枚方市 宇山東町 18-89

学位：修士（生涯健康科学）

## ②新設組織の特色

近年、少子高齢化やグローバル化の進展など社会背景の変化に呼応し、今まで医療は病院や診療所といった医療機関で完結していたが、現在、在宅医療が主体となり、訪問看護ステーションや介護老人保健施設など、人々が生活するさまざまな場所で、必要な支援に応じた医療が求められるようになってきた。

本学生涯健康科学研究科では「生体機能解析学領域」、「健康支援開発学領域」、「こどもとおとなの神経科学領域」、「こどもとおとなの生活科学領域」の4つの領域から構成されており、保健・医療・福祉に関連した共通科目群を配置し、それぞれの専門領域に関連した科目を受講することで、自身の領域に限らず保健・医療・福祉についての幅広い知識を習得させ、疾病予防、健康増進、生活支援に必要な知識及び技能を養う。本学では、既設の医学部、看護学部、リハビリテーション学部を始めとして医学研究科及び看護学研究科、さらには附属研究所及び附属医療機関の有するリソースを持つ強みを活かし、保健・医療・福祉分野において幅広い修学内容を教授し、専門職及び研究者を志す学生を養成する。

これらの領域における本学教員の研究分野等教育の質及び本学の施設面等の教育研究環境を総合的に判断し、入学定員を8名（収容定員16名）とした。

## （2）人材需要の社会的な動向等

### ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

近年、少子高齢化やグローバル化の進展など社会背景の変化に呼応し、今まで医療は病院や診療所といった医療機関で完結していたが、現在、在宅医療が主体となり、訪問看護ステーションや介護老人保健施設など、人々が生活するさまざまな場所で、必要な支援に応じた医療が求められるようになってきた。

また医療のみならず、健康を維持・増進することがこれからの社会において重要であることから、わが国では、昭和53年より健康づくり運動が継続的に実施され、現在は平成25年からの「第4次国民計画づくり～健康日本21（第二次）」が進行中である。一方で令和5年5月には「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の全部を改正する件」（厚生労働省告示第二百七号）<sup>2</sup>が示され、「全ての国民が健やかで心豊か

<sup>2</sup> 国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の全部を改正する件  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001102267.pdf>

に生活できる持続可能な社会の実現に向け、誰一人取り残さない健康づくりの展開（Inclusion）とより実効性をもつ取組の推進（Implementation）を通じて国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な事項を示し」、具体的に“健康寿命の延伸と健康格差の縮小”、“個人行動と健康状態の改善”、“社会環境の質の向上”、“ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり”が基本的な方針として示されている。これらの方針によれば医療機関等の受診から始まる従来の受診行動ではなく、国民一人一人のそれぞれのライフステージにおける健康需要に応える人材が必要とされている。

平成 26 年に閣議決定された「健康・医療戦略」（平成 26 年 7 月 22 日閣議決定）<sup>3</sup>では、「若い世代から高齢者に至るまで国民誰もが健康な状態を維持し、・・・（中略）国民の生命を守り、個々の生活を保障する医療福祉分野における基本理念を堅持した上で、国民がさらに健康な生活及び長寿を享受することのできる社会（健康長寿社会）を形成することが急務となっている」と我が国の今後の課題として健康が述べられ、さらに令和 3 年に一部変更された「健康・医療戦略」（令和 3 年 4 月 9 日一部変更）の基本計画において、「予防・進行抑制・共生型の健康・医療システム（多因子型の疾患への対応を念頭に、医療の現場と日常生活の場が、医療・介護の専門の専門家、産業界、行政の相互の協働を得て、境目無く結び付き、個人の行動変容の促進や QOL の向上に資するシステム）の構築を目指す」とされており、我が国が目指す健康長寿社会の実現に向けた人材が求められている【資料. 2】。

## ②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

文部科学省「学校基本調査」の高等教育機関の調査（関係学科別 状況別 卒業生数、平成 29 年～令和 4 年）によると、全ての学部卒業生に占める進学者の割合は概ね毎年 11%であるのに対し、本学生涯健康科学研究科修士課程への進学を想定している保健（その他）の学問分野においても概ね毎年 6%となっており、本学が修士課程への進学を想定している学問分野においても、大学院への進学を志す学生が毎年一定数の進学者がいることが読み取れる【資料. 3】。

また文部科学省「学校基本調査」（専攻分野別 大学院 入学状況、平成 29 年～令和 4 年）によると保健（その他）分野の大学院修士課程（博士前期課程）への志願者数は、5 年間の推移においても 4,995 人から 5,225 人と安定した志願者数を保っており、毎年微増であるため、保健（その他）分野への修士課程（博士前期課程）への志願者が毎年一定数存在することが分かる【資料. 4】。

## ③新設組織の主な学生募集地域

本学が位置する大阪府枚方市は公共交通機関を使用して大阪府中心部や京都府中心部

---

<sup>3</sup> 健康・医療戦略（平成 26 年 7 月 22 日閣議決定）  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryousuisin/ketteisiryoudai2/siryou1.pdf>

から 30 分程度、また兵庫県、奈良県中心部からも 1 時間程度で移動が可能であるため、本学近隣のみならず幅広い地域からの通学が可能である。大学卒業後に本学生涯健康科学研究科を志望する学生も想定されるため、和歌山県、三重県についても学生募集活動を予定している。なお、職を有したまま入学する社会人も想定しているため、講義の開講時間については 4 限以降（15 時～）としている。

なお、先に資料として用いた「学校基本調査」では、調査票として学部における“出身高校の所在地県別 入学者数”、“都道府県別 学部学生数”が公開されているが、大学院に関する同様の調査はなく、大学院においては“専攻分野別 大学院入学状況”、“大学院年齢別入学者数”の公開データからはどの程度の都道府県から大学院進学者がいるかを算出することは不可能である。

そのため、後述する競合校の考え方に詳細は記載しているが、本学が想定している競合校について、各大学院の公開状況から、定員充足状況を算出した。一方で私立大学振興共済事業団が公開している「私立大学・短期大学等入学志願動向」では、本学が設置を構想している生涯健康科学研究科は系統区分としては、「保健系研究科」となるが、令和 5 年を例にとると 160 の研究科がさらに細分化されており、そのうち 77 が看護学研究科であり、その他が 34 である。これら研究科で全体の約 7 割を占めており、それ以外の研究科については本学が想定している生涯健康科学研究科の分野と同一であるとは言えない。また一方で、過去 3 年間の充足率は概ね 80%を超えており、微増傾向にはあるが、前述の理由により「私立大学・短期大学等入学志願動向」を用いた分析は不可能である【別紙. 1】。

#### ④既設組織の定員充足の状況

設置構想中である大学院生涯健康科学研究科における既設組織である関西医科大学は医学部、看護学部、リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）の 3 学部を擁している。いずれの学部においても受験者数は定員を上回り、安定的に学生を確保している。生涯健康科学研究科の基礎となるリハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）については、令和 3 年 4 月に開設した。開設以降 3 度の入学試験を実施したが、直近年度である令和 5 年度入試においては、入学定員 100 名（理学療法学科 60 名、作業療法学科 40 名）に対し、実志願者が 274 名（理学療法学科 173 名、作業療法学科 109 名）となっている。【別紙. 2-1, 2-2】

### （3）学生確保の見通し

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

##### ア 既設組織における取組とその目標

生涯健康科学研究科の基礎となる学部であるリハビリテーション学部では、毎年 4 回のオープンキャンパスを実施している。オープンキャンパスの参加者はリハビリテー

ション学部が位置する大阪府にとどまらず、近隣の京都府、兵庫県を始め三重県や広島県など遠方からの参加者もあり、参加者はテーピングや革細工などの体験型プログラムに参加することで理学療法、作業療法を身近に感じることに加え、教員が行う模擬講義にも参加し、学術的な背景についても理解を深めている。また模擬講義とは別に、教員の研究分野のポスター展示をしている。オープンキャンパスの参加者のうち実際に受験した受験者数については、開設以降のオープンキャンパスについては概ね 50%となっている他、オープンキャンパスを実施する以外の月でおおよそ月 1 回土曜日に行っているキャンパス見学会についても参加者のうち実際に受験した受験者数については、過去 2 年間で約 54%から 74%と増加しており、受験生を対象としたイベントに参加することで理学療法、作業療法に対する関心を深め、受験していることが伺える。【別紙 3】。一方で設置構想中である生涯健康科学研究科についての本学学生に対するアンケート調査では、回答総数 59 人に対し、“関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程（仮称、設置構想中）が開設された場合、あなたは受験を希望しますか”の質問に対し、第一希望、第二希望として受験すると回答した学生のうち、“（関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程（仮称、設置構想中）が開設された場合、あなたは受験を希望しますか。）で①第一希望として受験する、②第二希望として受験する、③第三希望として受験すると答えた方のみおこたえください”に対して「入学する」との回答が 4 名おり、生涯健康科学研究科が設置された場合 6%程度の学部学生が大学院への入学意向を持っている。そのため在学生については、各演習科目や卒業研究などにより、研究マインドを育成することで卒業後に大学院に進学を希望する学生が増加するに努める。

#### イ 新設組織における取組とその目標

生涯健康科学研究科における PR 活動については、引き続きリハビリテーション学部オープンキャンパスにおいて、研究マインドを涵養する模擬講義等を実施する。また学部入学志望者とは別に、リハビリテーション学部学生の臨床実習の施設等において、研究科のポスターを配布する等継続的に広報活動を行う予定である。また医療機関に勤務する医療従事者のアンケート調査では、回答総数 85 人に対し、“関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程（仮称、設置構想中）が開設された場合、あなたは受験を希望しますか”の質問に対し、第一希望、第二希望として受験すると回答した者のうち、“（関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程（仮称、設置構想中）が開設された場合、あなたは受験を希望しますか。）で①第一希望として受験する、②第二希望として受験する、③第三希望として受験すると答えた方のみお答えください”に対して「入学する」との回答が 7 名おり、8%程度の医療従事者が生涯健康科学研究科が設置された場合、大学院への入学意向を持っている。そのため医療機関への広報活動を継続すると同時に、臨床実習の施設は延べ 182 施設あるため、継続的な広報活動を続けることにより、在学生と合わせ入学定員である 6 名を確保する予定である。

また基礎とする学部と同一系統であるリハビリテーション系学部を持つ大学等については、ポスター掲示を依頼する等本学生涯健康科学研究科の研究の特色等の広報活動に努め、志願者確保の一助とする予定である。

#### ウ 当該取組の実績分析に基づく、新組織での入学者の見込み数

本学リハビリテーション学部在学生の大学院生涯健康科学研究科志願者については、1学年の定員 100 名に対して前述の通り 6%の志願者を想定している。一方で医療機関における志願者については、広報活動をする医療施設等の医療従事者数が不明であるが、入学意向についてアンケートを送付した 137 件の医療機関については、認可後に生涯健康科学研究科の特色等をパンフレット等により広報活動を行う。アンケート結果では、“関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程（仮称、設置構想中）の進学に興味・関心がない理由を教えてください”の質問に対し、「本修士課程についてのもっと詳しい情報を得た上で検討したいから」の回答が 51.9%（40 件）となっているため、“関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程（仮称、設置構想中）が開設された場合、あなたは受験を希望しますか”の質問に対し、「分からない」と回答した 58.8%（50 件）のうち、同質問に対して第一志望として受験する、第二志望として受験すると回答した割合（ $8/85=0.09$ ）が受験を希望した場合、5 人弱の受験者が想定され、在 student と合わせて 10 名程度の受験者が想定される。

### ②競合校の分析状況

#### ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学が位置する大阪府下におけるリハビリテーション学部を基礎とする大学院研究科修士課程の設置状況は公私立 6 大学院（大阪公立大学、大阪河崎リハビリテーション大学、大阪電気通信大学、大阪保健医療大学、関西医療大学、森ノ宮医療大学）である【資料. 5】。通学に際し公共交通機関の利用（乗継）等を考慮に入れた場合、大阪の中心部から通学圏を想定する学生数が多数を占めることが予想されるため、大阪の中心部から通学できる同一系統（リハビリテーション学部を基礎とする大学院）の大学院を競合校とし、いずれの競合校においても、本学が研究指導を適切に行えると考えている収容定員となっている。前述の 6 大学院の 2021 年～2023 年の 3 年間における入学定員における入学者数から入学定員充足率を各大学のホームページから調査したところ（表 1）、6 大学院における 2023 年の定員充足率は 1.07 となっており、概ね定員を満たしている。生涯健康科学研究科が設置を予定している枚方市は大阪府北東部（北河内地区：守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）にあり、大阪府北東部にあるリハビリテーション系大学院は 1 校のみとなっており、同地区における潜在的な入学者を想定した場合、本学生涯健康科学研究科の定員は充足する見通しである。

また本学の有する附属病院（枚方市）は大阪府の北河内医療圏（大阪府下二次医療圏のうちの 1 つ（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）において

唯一の特定機能病院として厚生労働大臣から承認を受けており、大学附属病院として高度先端の医療の提供、高度の医療技術の開発および研修を実施する能力等を備えた病院である【資料 6】。そのため、今般申請する生涯健康科学研究科修士課程が主に研究対象とする疾病予防、健康増進、生活支援等の研究のデータの収集や通院から地域における対象者の生活等を考える上においても本学が附属医療施設を擁することのメリットは大きく、他の大学院にない特色となっている。また生涯健康科学研究科と既設研究科である医学研究科、看護学研究科との連携が容易であり、医療系大学院として他の大学院と比較して特色であると思われる。なお、学生納付金についても本学の他の研究科における学納金及び学生の負担の軽減を考慮し、学生が進学を検討できる金額を設定した。本学生涯健康科学研究科を修了することで得られる資格等は特にないが、学部から進学した修了生については、研究分野を勘案し、適切な就職支援を行う。

### イ 競合校の入学志願動向等

前述した 6 大学院における過去 3 年間における入学定員充足率、定員充足率は表 1 の通りである（別紙 1 の内訳）。なお、いずれの大学においてもホームページに公開されている情報を元に行っているため、全ての大学が公開している入学者数、学生現員を用いている。過去 3 年間において、一貫した傾向は読み取ることができず、入学者数の増減については、十分な分析を行うことは不可能である。

表 1：競合 6 大学院における入学定員充足率

#### ・入学定員充足率（2023 年）

大学名	大阪公立 大学	大阪電気 通信大学	関西医療 大学	森ノ宮 医療大学	大阪河崎リハビリ テーション大学	大阪保健 医療大学	計
入学者数	19	9	13	9	7	1	58
入学定員	15	10	9	6	8	6	54
充足率	1.27	0.90	1.44	1.50	0.88	0.17	1.07

#### ・入学定員充足率（2022 年）

大学名	大阪公立 大学	大阪電気 通信大学	関西医療 大学	森ノ宮 医療大学	大阪河崎リハビリ テーション大学	大阪保健 医療大学	計
入学者数	16	7	7	4	4	3	41
入学定員	15	10	9	6	8	6	54
充足率	1.07	0.70	0.78	0.67	0.50	0.50	0.76

#### ・入学定員充足率（2021 年）

大学名	大阪公立 大学	大阪電気 通信大学	関西医療 大学	森ノ宮 医療大学	大阪河崎リハビリ テーション大学	大阪保健 医療大学	計
入学者数	20	7	7	8	-	3	51
入学定員	15	10	9	6	-	6	46
充足率	1.23	0.70	1.44	1.33	-	0.50	1.10

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

前述したように大阪府下におけるリハビリテーション学部を基礎とする大学院研究科修士課程を持つ 6 大学院の動向については、その傾向について分析することが不可能である。

一方で、いずれの大学院においても基礎となる学部の学生及び社会人を志願者として想定していると思われるため、詳細については実施したアンケートによるが、在學生、社会人を対象とした入学意向についても入学定員を上回る回答があるため、定員は充足すると思われる。また本学は特定機能病院を擁していること、医学研究科、看護学研究科が既設研究科としてあることもが競合校にはない特色である。

エ 学生納付金等の金額設定

生涯健康科学研究科の学生納付金は、他大学の学部卒業生を始め、既に理学療法士、作業療法士を始めとする医療職に就業している者、その他の職に就いている者の経済的負担を考慮し、学生納付金を、入学金 20 万円、授業料 40 万円と設定した。合わせて前述の公私立 6 大学のリハビリテーション系大学院及び本学の既設研究科である医学研究科、看護学研究科の学費等を勘案し、学費を設定した。学費設定は経済的負担に考慮し設定しており、幅広い志願者確保の一助となると思われる。

### ③先行事例分析

関西医科大学院生涯健康科学研究科修士課程については、本学における既設組織を廃止し、新設組織を設置しないため、該当しない。

### ④学生確保に関するアンケート調査

本学生涯健康科学研究科修士課程への入学意向ニーズを把握するため、リハビリテーション系学部を設置し、大学院を開設していない近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県）大学 17 大学、大学院への入学資格を有する文部科学大臣指定専修学校専門課程 13 校、社会人の通学圏を 1 時間以内とし、各都道府県保健医療計画に記載のある 137 医療施設、及び医療関連企業 5 社に在籍、所属する学生及び医療職者を対象としたアンケート調査を本学で実施した【資料. 7-1】【資料. 7-2】。

なお、アンケートについては、ウェブを通じたアンケートを依頼した。調査期間は令和元年 10 月から 11 月、アンケートの有効回答は 166 件であった。【資料. 8】

アンケートでは、それぞれの属性に関する質問の後、まず進学の意向について“あなたは、大学院修士課程へ進学したいと思いますか”と質問した。質問に対して「進学したい」が 7 人、「条件が整えば進学したい」が 24 人、「将来進学を考えている」が 13 人と大学院進学に前向きにとらえた回答が 44 人（26.5%）であった。

次に、「進学したい」、「条件が整えば進学したい」、「将来進学を考えている」の回答者に対して「大学院で学びたいと考えている興味のある学問分野を選択してください」と質問し

たところ、リハビリテーション学が 28 人、理学療法学が 23 人、医学が 17 人、健康科学が 13 人であった。

一方で、“関西医科大学大学院 生涯健康科学研究科 修士課程（仮称、設置構想中）が開設された場合、あなたは受験を希望しますか”と本学生涯健康科学研究科修士課程への入学意向を質問したところ、「第一希望として受験する」と答えた人数は 11 人、「第二希望として受験する」と答えた人数は 3 人、「第三希望以降として受験する」と答えた人数は 2 人、合計 16 人であった。16 人に対して、“関西医科大学大学院 生涯健康科学研究科 修士課程（仮称、設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか”に対して、「入学する」と 12 人の回答があった。この人数は関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程の入学定員 8 人を 4 人上回っている。一方で 12 人のうち「関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程（仮称、設置構想中）に進学するとした場合、時期はいつ頃を考えていますか」の問いに対して“開設後すぐ：2025 年（令和 7 年）”の回答は 6 名、“2027 年（令和 9 年）”の回答は 2 名、“2023 年（令和 10 年）”の回答は 1 名である。“開設後すぐ：2025 年（令和 7 年）”の内訳は本学の在学生在が 4 名、社会人が 2 名である。“開設後すぐ：2025 年（令和 7 年）”の回答は入学定員の 8 名を下回っている。また“未定”の回答が 7 名あり、回答の内訳は在學生 3 人、社会人が 4 名である。在學生については、申請時点において 3 年生であったが、本学の 4 年次開講科目として理学療法学科、作業療法学科とも「卒業研究」があり、リハビリテーション分野における学生の関心に基づき研究を実施するため、研究に関心を持ち大学院への進学を希望する学生が想定される。また未定と回答した社会人 4 名については、認可後、講義を担当する教員及び教員の研究分野等について、研究科の概要について入学意向アンケート実施時より詳細な情報を提供するため、教員の研究分野等と理学療法士、作業療法士の社会人が高度専門職業人としての能力向上として大学院の進学を希望する学生が想定される。未定と回答した 7 人の割合が回答者の 43.8%と約半数を占めている。そのため広報活動を通じて生涯健康科学研究科の教育課程等を広報することで、進学時期を検討する上で一助とする。

また、“関西医科大学大学院 生涯健康科学研究科 修士課程（\*仮称、設置構想中）が設置された場合、あなたは受験を希望しますか”の問いに「受験しない」または「わからない」と答えた回答者 150 人に理由を質問したところ（複数選択式）、「本修士課程についてのもっと詳しい情報を得たうえで検討したいから」と回答した者が 78 人いた。この結果は、今後本学生涯健康科学研究科修士課程の特色やカリキュラムについて広報活動を通して詳細の情報を発信することによって、この 78 名の中からも、「進学したい」、「将来進学を考えている」、「条件が整えば進学したい」に転ずるケースが期待できることを示唆している。

#### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学生涯健康科学研究科修士課程修了生の主な進路と想定される医療機関及び企業等について修士課程の修了予定者に対する採用意向を質問した【資料. 9】。令和元年 11 月に 471

件の医療機関及び企業にアンケートを送付し、74件の回答があった【資料. 10】。

「関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程の社会的ニーズ」に対しては、「ある」が33件(44.6%)、「ない」2件(2.7%)、「わからない」が39件(52.7%)、と本学が構想している生涯健康科学研究科の社会的ニーズがあるとの回答が一定数あった。一方社会的ニーズが「ある」と回答した33件に対して、「関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程修了者の採用意向」について質問したところ、「採用したい」が5件(15.2%)、「採用を検討したい」の20件(60.6%)を合わせると25件(75.7%)となっており、「採用したい」の5件は本学修士課程の予定入学定員(8名)を下回っている。なお、文部科学省「学校基礎調査」における修士課程の状況別卒業者数によると、生涯健康科学研究科と同系統である保健(その他)における進学率は平成29年から令和4年までの5年間において概ね1割程度となっており【資料. 11】、生涯健康科学研究科修了生も1名程度は進学が予想される。一方で、医療機関及び企業に対する採用意向の調査における「関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程の社会的ニーズ」において「ある」と回答した場合のみ、問6を回答することとなっている。問5において「関西医大生涯健康科学研究科修士課程の社会的ニーズ」が「ある」と回答した件数は33件であり、33件中、問6で「採用を検討したい」と回答した件数は20件である。20件については、採用可能な人数については回答していないが、関西医大生涯健康科学研究科修士課程の社会的ニーズについては、「ある」と回答しているため、認可後は生涯健康科学研究科のカリキュラム、研究領域等生涯健康科学研究科の終了時に得られる指導的立場等の能力について積極的に広報活動を行う。なお、医療機関及び企業に対する採用意向の調査に際し、「関西医科大学大学院生涯健康科学研究科修士課程への進学希望時の対応」については、「わからない」が35件(47.3%)、「条件があれば入学させたい」が31件(41.9%)件あった。ここからも本学が申請している各領域に対しての潜在志願者、あるいは各領域への医療機関及び企業の関心が伺える。

以上により、生涯健康科学研究科修士課程の修了予定者に対する企業、保健・医療機関等からのニーズは高いが、一方で予定入学定員(8名)を下回っていることから、前述したように認可後にはアンケートを実施した医療機関及び企業に対し、生涯健康科学研究科の教育研究や修了後に身に付けることができる能力等を積極的に広報活動に努め、修了生の就職についても大学が支援を行う。

#### (4) 新設組織の定員設定の理由

関西医科大学生涯健康科学研究科では、基礎となる学部であるリハビリテーション学部の教員が研究科における講義、演習、研究指導を行うため、十分な研究指導が行うことができること、また生涯健康科学研究科が位置する大阪府下において十分に定員をみたくことのできることを考慮し、入学定員を8名、収容定員を16名と定めた。